

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本校の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は称号授与の合否判断の基準となる成績、出席率等の「卒業判定の要件」と、受講するカリキュラムを通して修得を期待する能力、育成する人物像を示した「教育目標に定める人材育成」に基づき定めています。

【卒業判定の要件】

・年度内の前後期に行われる2回の試験評価が、履修科目全てにおいて合格判定（S、A、B、C）であることが卒業判定の要件となります。不合格判定（D、E）の履修科目は前後期末に行われる補講期間内に、本校が定める内容の補講レポートを提出することで合格判定とすることができます。尚、1年次において進級判定の要件も同様としています。

・履修科目全ての開講授業数と出席数から算出した「出席率」において、年間80パーセント以上であることが卒業判定の要件となります。80パーセント未満であった場合には、出席率に応じた本校の定める補講レポートを提出することで不足した出席数を充足するものとします。尚、1年次において進級判定の要件も同様としています。

【教育目標に定める人材育成】

本校は教育目標に定める人材を育成するために、修業期間である2年間の在学中に所属する学科の教育目標に定めた専門分野に関する知識、技術、並びに教養を習得し、履修科目全ての試験に合格し所定の出席率を超過した学生に称号を授与します。

各学科の「教育目標に定める人材育成」を以下の通り定めています。

●音楽アーティスト科

音楽アーティスト科は以下の専門分野に関する知識、技術、並びに教養の修得を称号授与の要件とします。

□次にあげる、専門分野の知識、技術、並びに教養を習得していること

一、理論や類例を通じて得る知識量と反復実践において獲得するテクニックを包括し、エンタテイナーとして即戦力となりうる高度な技術力を習得していること

一、ワークショップや討議などを通じてエンタテイナーとしての美学や哲学など多様な感性を磨き、ステージにおけるケーススタディーを通じて観衆を魅了しうるパフォーマンス力を習得していること

一、専門分野における基礎課程を土台とした作品制作における技術や知識の組み合わせ、及び実験を試みながら新時代に対応しうる創造性やクリエイティビティーを習得していること

□次にあげる、進路に関連する文化向上に貢献しうる人材であること

一、新技術などの革新的事象に対する柔軟な受容を行え、新たな時代に対応しうる知的な好奇心を持った人材であること

一、グローバル化の進行の中で多様な文化や価値観を尊重する国際性豊かで多角的な視点を持った人材であること

一、産業界の慣習を理解し、ビジネス慣行に対応した社会性を実践しうる礼節豊かな人材であること

●声優芸能科

声優芸能科は以下の専門分野に関する知識、技術、並びに教養の修得を称号授与の要件とします。

□次にあげる、専門分野の知識、技術、並びに教養を習得していること

一、声優、俳優の土台となる、発声法、発音法、呼吸法を基に美しい響きを持った正しい日本語で正しい情報を伝達することができる専門的知識と技術を習得していること

一、多くの戯曲と作品に触れ創作を通して、脚本や創作意図を理解し解釈する力、自ら思考し役柄の個性を表現する力、他者に伝えるための演劇的な説得力を習得していること

一、様々なメディアにおいて対応するための、歌唱、アフレコ、ダンス、殺陣、ナレーション等、それぞれの専門分野における基礎技術と応用技術を習得していること

□次にあげる、進路に関連する文化向上に貢献しうる人材であること

一、実践的なカリキュラムの中でグループ内フィードバックやディスカッションを行い培った、協調性、礼儀作法、対話力等の基本資質を持った人材であること

一、インターネット上の多様化するメディアにおけるコミュニケーション能力と、独創的な自己プロデュース能力を持った人材であること

一、メディアは演者と裏方の共同作業によって制作されていることを理解し、自身に取り組む分野での技術の研鑽に励みつつ、相手への尊敬の念を持ち豊かな人間関係を構築できる人材であること

●音楽芸能スタッフ科

音楽芸能スタッフ科は以下の専門分野に関する知識、技術、並びに教養の修得を称号授与の要件とします。

□次にあげる、専門分野の知識、技術、並びに教養を習得していること

一、授業内で使用した様々な機器の名称、役割、正しい接続方法、基本的な操作技術を習得していること

一、授業内のグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等で学んだ音楽スタッフそれぞれの役割と演者との関係性を理解し、実践的なイベントにおいて活かすことのできるコミュニケーション能力を習得していること

一、様々な環境や条件を想定した授業を受講した結果として、いかなる場面においても音楽スタッフとして、それぞれの役割の上で臨機応変に対応できる能力を習得していること

□次にあげる、進路に関連する文化向上に貢献しうる人材であること

一、社会において自己の確立を目指し自己の適性を理解し、キャリアプランニングに活かすことができる人材であること

一、自ら考え行動し自己の洞察力を磨くことで培った、問題点を分析し解決する能力を持った人材であること

一、進路に関連する知識、技術の習得を追求し、自己研鑽できる意思を持った人材であること